

帝京大学女性医師・研究者 支援センターNEWS

Teikyo University Support Center for Women Physicians and Researchers



働く女性の健康を考える「Global Women for Wellbeing seminar (GW4W)」を開催

2018年9月22日(土)、帝京大学霞ヶ関キャンパスにて、女性医師・研究者支援センターとニューヨークに本部をおく非営利団体 Global Women 4 Wellbeing (GW4W) が共催で国際セミナーを開催し、沖永寛子センター長が「ダイバーシティおよび働く女性の健康：我が国の女性医師・研究者の現状と帝京大学における取組」というタイトルで基調講演を行いました。GW4Wは働く女性が健康的にキャリアを継続できるよう(1)研究(2)新規構想(3)リーダーシップ(4)メンタリングを通してネットワーキング・支援を推進する団体です。今回は、「Women, Health and Leadership - Making a greater impact toward Sustainable Organization and Thriving Economy in Japan」をテーマに、働く女性が活躍し続けることの意義や支援・取り組みについて、発表・意見交換を行いました。第1部では、厚生労働省安全衛生部長 椎葉茂樹氏より「日本政府が進める働き方改革」の説明、GW4Wの各支部代表から「アメリカ・日本・アジアなどエリアごとの女性の活躍・エンパワーメント」について報告が行われました。第2部では、産業医から女性の働き方に関する企業の取り組みや、地域・企業・学校・病院など各組織ごとの取り組みが日本全体の働き方改革につながり、持続可能な社会につながっていくという報告がありました。その後、当日の講演・発表をふまえてグループワーク・ディスカッションを行い、最後にGW4W本部により、女性が健康に働き続けること、リーダーとして仕事を続けることの意義、GW4Wの取り組みへの賛同・参加が呼びかけられ、盛況のうちに終了しました。当日は約40人が参加し、和やかな雰囲気の中でお互いの意見に耳を傾け、女性の活躍に貢献するエンパワーメントの場となりました。



Global women for wellbeing (GW4W) - Japan Kick Off

Women, Health and Leadership – Making a greater impact toward Sustainable Organization and Thriving & Economy in Japan
Sep.22 2018 at Teikyo University Kasumigaseki Campus

◆プログラム

- ・開会挨拶 市川 佳居氏 (GW4W 日本支部 世話人)
- ・来賓挨拶 椎葉 茂樹氏 (厚生労働省安全衛生部長)
- ・基調講演 1
沖永 寛子氏 (帝京大学常務理事 副学長、医師)
「ダイバーシティおよび働く女性の健康：我が国の女性医師・研究者の現状と帝京大学の取組」
- ・基調講演 2
Gina Parekh 氏 (GW4W シンガポール支部長、医師)
「Empowering Healthy Female Leadership: from perspective of global corporations in Asia Pacific region」
- ・研究発表 「就労女性と更年期：実態調査と仕事への影響」
加藤 杏奈氏 (産業医 花王(株)人財開発部門)
- ・教育講演 「健康経営と女性の健康—持続可能社会に向けて」
荒木 葉子氏 (医学博士 荒木労働衛生コンサルタント事務所)
- ・小グループディスカッション
ファシリテーター：西川 あゆみ氏・松井 知子氏
 - 1) 女性の心身の健康に必要なことは何か
 - 2) 働き方改革における女性の役割とは何か
 - 3) 私は女性支援に何ができるか
- ・閉会挨拶
Nancy Board 氏 (GW4W ニューヨーク)



平成 29 年度学内ニーズ調査アンケート結果のご報告 (育児編)

平成 30 年 2 月に実施した育児・介護と仕事の両立に関する学内アンケート調査の結果について一部報告いたします。今回よりアンケート方式を WEB アンケート形式に変更して実施し、本学教職員の皆さまから 713 件の回答をいただきました。ご協力いただいた皆様、誠にありがとうございました。なお、結果詳細は当センター WEB ページ上でも公開しております (https://www.teikyo-u.ac.jp/affiliate/laboratory/support_center/)。

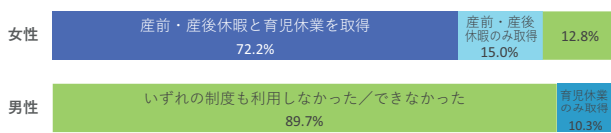
1. 回答者属性について

回答者 713 名のうち 407 名が女性、283 名が男性 (未回答 23 名)、回答者の職種は多い順に教員 260 名 (男性 160 名、女性 100 名)、教務・事務職員 234 名 (男性 85 名、女性 149 名)、看護師 135 名 (男性 15 名、女性 120 名) と続いた。そのうち、18 歳以下の子どもがいると回答した者 251 名 (男性 116 名、女性 135 名) に対し、子育てと仕事の両立に関する質問を行い、以下の回答を得た。

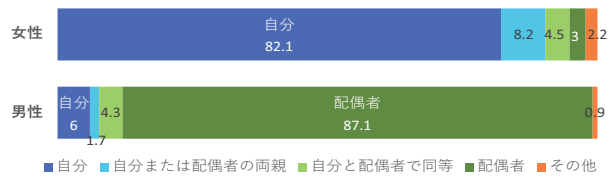
2. 産休・育休の取得状況と主な子育て者について

子育て中の回答者のうち、女性に関しては産前・産後休暇と育児休業を取得した回答者が 72.2% と最も多かった。男性に関しては、いずれの制度も利用しなかった／できなかったと回答したのが 89.7% と圧倒的に多く、育児休業を取得した者は 10.3% にとどまる結果となった (図 1)。なお、主な子育て者の質問については、女性は「自分」、男性は「配偶者」と回答した者が多く、女性 (母親) が主に子育てを担っていることが伺える結果となった (図 2)。

(図 1) 産休・育休取得状況について



(図 2) 家庭における主な子育て担当について

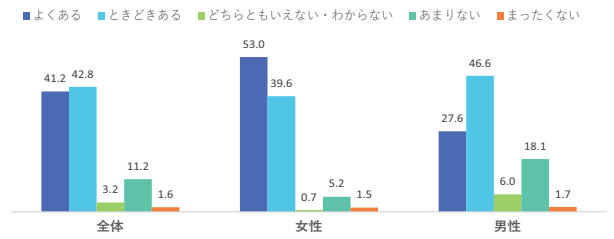


3. 子育て期における仕事の両立について

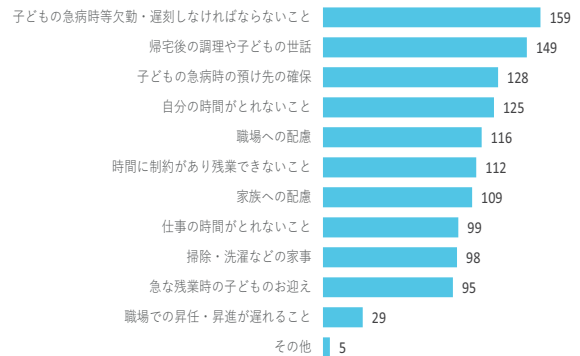
子育て期に仕事との両立を困難に感じることがあるかについての質問に対し、全体でみると「ときどきある」と回答した者が最も多いが、性別でみると、女性は「よくある」回答者が 71 名と最も多くなっている (図 3)。家庭と仕事の両立で困難を感じることは、「子どもの急病時に欠勤・遅刻しなければならないこと」が最も多く、次いで「帰宅後の調理や子どもの世話」、「子どもの急病時の預け先の確保」、「自分の時間が取れないこと」の順に続いている (図 4)。

また、自分または配偶者が出産・子育てのために離職せざるを得なくなる可能性について考えたことがあるか、の問いに関しては、「よく考える・たまに考える」との回答が全体の 69.2% となっており、子育て中の回答者の多くが、仕事と家庭の両立に困難を感じていることが伺える (図 5)。

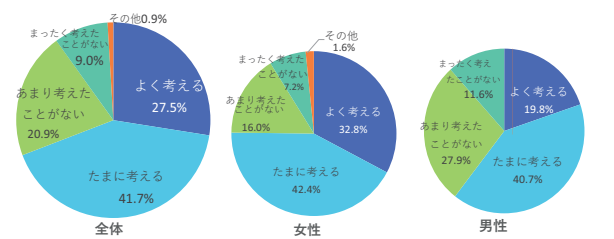
(図 3) 子育て期に仕事との両立を困難に感じることがあるか



(図 4) 家庭と仕事の両立で困難を感じること (複数回答可)



(図 5) 離職について



お知らせ

平成 30 年度学内ニーズ調査協力をお願い 今年度の調査は 12 月実施予定です。詳細は所属学部・講座よりメール等でご案内いたします。
平成 31 年度研究支援員配置申請について 4 月からの配置申請受付は 2 月を予定しています。詳細は 1 月中旬にホームページに掲載します。

編集後記

巷では「平成最後の」というフレーズが流行っているようで、それとなく平成の出来事を振り返るこの頃。男女共同参画に関していえば、進んだもの・思うようにいかないものがありますが、それでもきっと 30 年前には想像できなかった未来の社会を生き延びることに違いありません。未来をつくるのは今を生きる私たち。そしてそれは、今の子どもたちが活躍する時代です。新年号への期待とともに、新しい時代に実現させたいことをあれこれ考えるのが楽しい、そんな冬の一コマです。(仲)

編集・発行

帝京大学 女性医師・研究者支援センター

〒 173-8605 東京都板橋区加賀 2-11-1 病院棟 6F
TEL : 03-3964-8456 FAX : 03-3964-8457
Mail : women@med.teikyo-u.ac.jp

